

防災キャンプ I (例)

※は防災を含む安全に関する教育に関連する項目

● 日程

7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
			受付	開 会 行 事	アイス ブレイク	昼食 (レストラン)	テントとタープで 基地を作ろう	災害時の食事作り に挑戦① (カレーライス)	たき火を かこんで 1日をふり 返ろう	就寝 準備	就寝			
起床	災害時の食事作り に挑戦②(焼きそば)	片付け 休憩	アドベンチャー・ プログラム	昼食 (レストラン)	防災行動計画 の作成 (生活につな げよう)	閉 会 行 事								

はじめの会(※学級活動)

キャンプネームを決めたり、自己紹介をしたりして緊張をほぐす。質問紙調査①を実施。ポートフォリオの説明をして、意欲付けを行う。

ブリーフィング①(※学級活動)

様々なアイスブレイクを行う。

- ・全員：ビート、ネームリング、フルーツバスケットなど
- ・班ごと：フープリレーなど

ブリーフィング②(※第5学年 社会科)

「防災」「災害」「自助」「共助」の言葉の意味について確認を行う。本事業の内容と趣旨を確認し、活動を通して「自助」「共助」につながる行動ができるようになることが目標であることを確認する。

テント・タープ設営(※第5学年及び第6学年家庭科 衣食住の生活)

- ・一人一張、自分が寝るソロテントを自分で設営する。
- ・班の仲間で協力し合って、創意工夫をしながらタープを設営する。「共助」の意味について体験を通して考える。

防災炊飯(屋外・夕食)(※第5・6学年家庭科 衣食住の生活)

一人ずつ竈で火を起し、飯ごうでレトルトカレーとレトルトご飯で夕食づくりを行う。(ポリ袋炊飯も可能)

ふりかえり(※第5学年 社会科)

活動の中で自分ができたり、班の中で見られたりした自助・共助の姿を共有。活動での学びと防災のつながりについて考えを深める。

防災炊飯(屋外・朝食)(※第5・6学年家庭科 衣食住の生活)

共助の日と位置付け、班員全員で食事(焼きそば)作りを行う。役割分担をしたり、調理状況や他の人の動きを見たりして、自分が協力できることを考え、行動する。

テント・タープ撤収(※第5学年及び第6学年家庭科 衣食住の生活)

テント・タープを協力して撤収する。

アドベンチャー・プログラム(※特別の教科 道徳)

共助意識の育成に重要である「コミュニティ」と「多様性」の意識づけをねらって実施する。コミュニケーションワークショップの手法を取り入れ、ただ話すだけでなく、声の大きさや調子、身体の動きなど様々な点を工夫して、自分の思いを表現したり、他者の伝えたいことを読み取ったりする。

防災・減災行動計画作り(※第5学年 社会科)

自助・共助について改めて確認し、これから(キャンプⅡまでの1か月間)、日常生活場面で取り組む防災・減災行動計画を決める。



図1 フープリレー



図2 ブリーフィング②



図3 ソロテント設営



図4 タープ設営



図5 夕食づくり



図6 限られた水で



図7 タープで夕食



図8 ふりかえり



図9 朝食づくり



図10 テント撤収



図11 アドベンチャー
プログラム



図12 行動計画作り

防災キャンプⅡ(例)

※は防災を含む安全に関する教育に関連する項目

● 日程

9	10	11	12	13	14	15	16
	受付	防災行動計画の発表	災害時の食事作りに挑戦③ (屋内防災炊飯・カレーライス)		キャップハンディ・避難誘導体験		閉会行事



図1 発表準備



図2 班内発表

行動計画実施状況の共有(班別)(※第5学年 社会科)

1か月間で実施した内容や気づいたこと、考えたことを班内で発表する。

行動計画実施状況の共有(全体会)(※第5学年 社会科)

- ・自分たちの班で出された取組を他の班に伝えることで、自分の取組を改めて振り返る。
- ・様々な取組を行ったという発表をお互いに聞くことで、多様な見方や考え方に触れる。



図3・4 全体発表は希望者

防災炊飯(屋内・昼食)(※第5・6学年家庭科 衣食住の生活)

水場のない屋内のホールで、避難所を想定した炊飯を行う。ガスコンロと鍋を使用。班ごとに耐熱ポリ袋で作るご飯とレトルトカレーで昼食。



図5・6 防災炊飯(屋内)

キャップハンディ体験(※第5学年 社会科)

- ・「目が見えない」「耳が聞こえない」「足が不自由(車いす)」「高齢者」「妊婦」の体験をする。
- ・自分たちの班は、誘導する際にどの経路を通して、どういう工夫をするか、気を付けることなどの作戦会議を行なう。

避難誘導体験(※第5学年 社会科)

- ・班ごとに5つの特性(目が見えない、耳が聞こえない、足が不自由、高齢者、妊婦)の1つがある人役(ボランティア)の誘導を行う。
- ・「①多目的ホールBからつどいの広場へ」、「②つどいの広場から多目的ホールBへ」、の往復の道のりで異なる特性の人の避難誘導を行う。
- ・実施後はそれぞれ誘導されたボランティアが感想を伝え、班の中でふりかえりを実施する。それぞれの特性の相手のことを思いやり、どうしたら安心してもらえるのかを場面ごとに考えつつ、班のメンバーで協力しながら避難誘導を行う。
- ・相手に安心してもらえるようにする、自分だけでは難しいときにはできる人を探して頼るなど、相手を理解しようという気持ちや、共助の大切さについての意識を深める。



図7 車イス体験



図8 妊婦体験



図9・10 避難誘導体験



防災・減災行動計画作り(※第5学年 社会科)

キャンプⅠ・Ⅱで学んだことを受けて、今後、日常生活でできる防災・減災行動を考える。



図11 振り返り・行動計画作り